

河西便り

7月号① (和歌山大空襲)
2024.7.10 河西中学校



平和学習(和歌山大空襲について)

和歌山市における戦災の状況(和歌山県)

1. 空襲等の概況

1945年8月15日、太平洋戦争が終戦となりました。その終戦前の1945年7月9日の深夜から10日の未明にかけて和歌山大空襲の行われた日なのです。

太平洋戦争というのは、1941年12月8日に日本が英米に宣戦布告をして始まった戦争です。

太平洋戦争における米(アメリカ)機の本土空襲は、翌年1942年4月18日の空軍艦載機(注)が東京付近を襲ったのを最初とし、東京、名古屋、大阪、神戸など大都会への空襲が激化するなか、和歌山市も何度かの空襲を受けていましたが、本格的な空襲は7月9日の市内大空襲でした。

3時間の爆弾攻撃と焼夷弾(注)爆撃で市街地は破壊され、多くの死傷者を出したといえます。

2. 空襲等の状況

和歌山市では、昭和20年1月9日、1機のB29が突如、吉田、黒田の上空に現れ、250kg爆弾約10発を投下したのを最初、終戦前日の8月14日の松江地区住友工場爆撃を最後として、合計10数回の空襲を受けたといえます。

もっとも被害が大きかった7月9日のB29による大空襲は、1編隊が通った後、次の編隊が、さらに第3の編隊がまた落としていくといった風に文字通りの波状攻撃で、午後11時36分に始まり、翌10日午前2時30分まで、縦横無尽の猛攻撃を続けました。

なかでも、旧県庁跡(今の汀公園)の凄惨さは目を覆うものがありました。4,000坪の空地は、大部分畑地に耕され絶好の避難場所とされていただけに空襲となると人々は、争ってここに集まり、四辺から迫る火熱と黒煙を凌いだといえます。

やがて猛烈な旋風が起こって吹き付ける火災は白熱の渦巻と化し、石が飛ぶ、人が飛ぶ、立ち上がって走ってその場を逃れようとしても出来ず、助けを求める声は焼夷弾の爆音や強風の音に混じって凄惨でありました。夜が明けてから見る空地の光景は、壕(注)の中、散乱した土管の中、荒廃した畑地の至るところに死体が累々。窒息死したもの、衣服が焦げて半裸や、裸のもの、黒焦げのもの、骨ばかりになっているもの様々で、同所の死者は、本空襲による全市の死者の6割強(748人)を占めた事実から見てもその惨状が思いやられます。

大空襲による市内の火災は、7月10日朝5時ごろになって、大体燃えるものは、燃え尽くして、ようやく収まりましたが、これまで市の象徴として市民が見慣れた和歌山城の天守閣は、一夜にしてその姿をかき消しました。

この空襲による全市の被害は、全焼2万7,402戸・重軽傷者4,438人、死者1,101人という大惨状であったのです。

3. 復興のあゆみ

和歌山市は、昭和20年の戦災で、市域の約70%を焼失、市街地は一望の焦土と化しました。この焦土を応急復旧する一方、将来を展望した新しい和歌山市建設を目指す戦災復興計画を樹立し、それまでの都市計画の欠点であった雑然とした市街地を明るく文化的で能率的な都市として再建することとしました。

戦災によって、一夜でその姿を消した和歌山城も昭和34年に再建され、市の象徴として再びその雄姿をあらわし、市民の喜びもひとしおであったといえます。

和歌山市も戦後73年を迎え戦災の焦土から立ち着きのある都市として立派に立ち直り、21世紀に向かって国際都市和歌山へと飛躍発展していくため着実に歩み続けています。

4. 次世代への継承

和歌山市では、毎年7月9日法要を開催しています。

戦争は、最大の人権侵害であります。本日のこの放送を通して、『命の尊さ』や『互いの違いを認める大切さ』を考えるきっかけとしてもらえればと思います。

(注)艦載機(かんさいき) 軍艦に搭載され、かつそこから運用可能な航空機

焼夷弾(しょういだん) 高熱を出して燃える薬剤を装置した爆弾(下図)

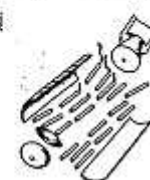
壕(ごう) 土を掘って作った穴

引用:総務省 一般戦災死没者の追悼 和歌山市における戦災の状況



集束焼夷弾の弾頭

1発の爆弾から36発のM68焼夷弾が100m上空でばらまかれた。



空襲後の和歌山市(城の北東)
(右上の建物の残骸は元の丸正百貨店(本町二))
(空襲後の和歌山市の写真)

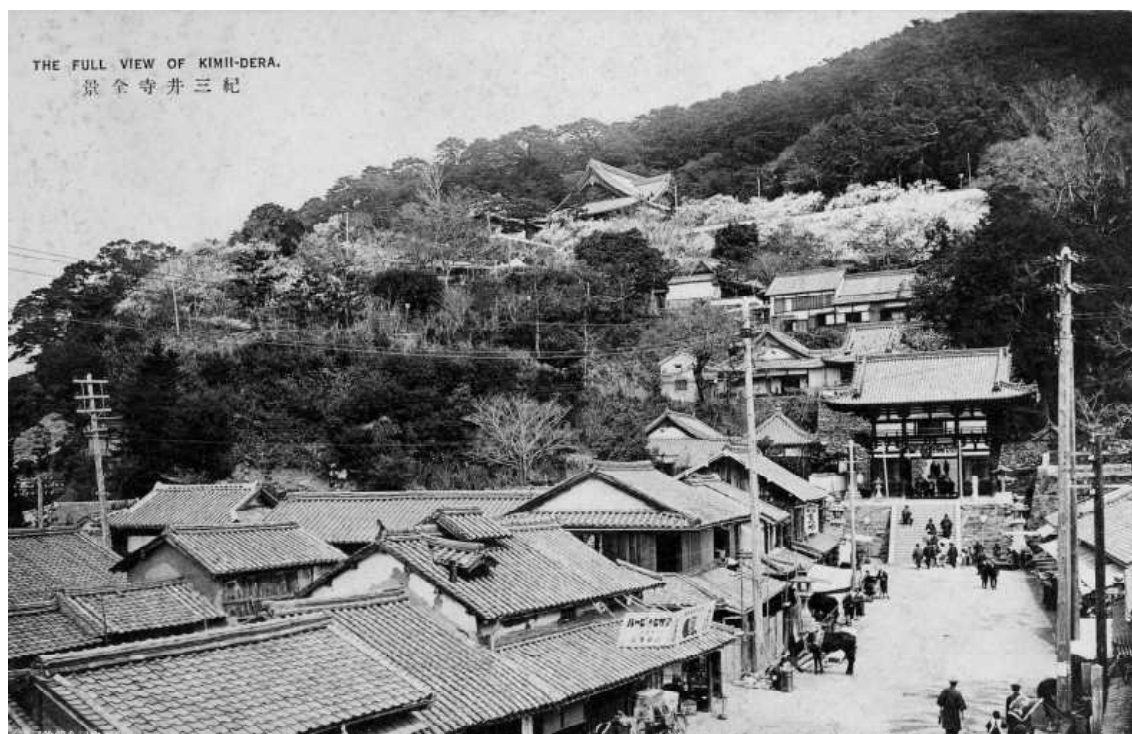
(被害日・被害場所)

月 日	場所(現在地) 被害
1月9日	JR和歌山駅付近 死者2人、負傷8人
3月4日	作事丁 死者2人、負傷6人
3月29日	JR和歌山駅付近 死者11人、負傷18人
5月4日	御膳松 死者56人、負傷150人
6月15日	松江住金住宅付近 死者3人、負傷6人
6月22日	小松原五丁目付近 死者27人、負傷36人
7月9日 ~10日	市街地全域 死者1101人以上 負傷4438人以上
7月24日	宇須 死者10人、負傷20人

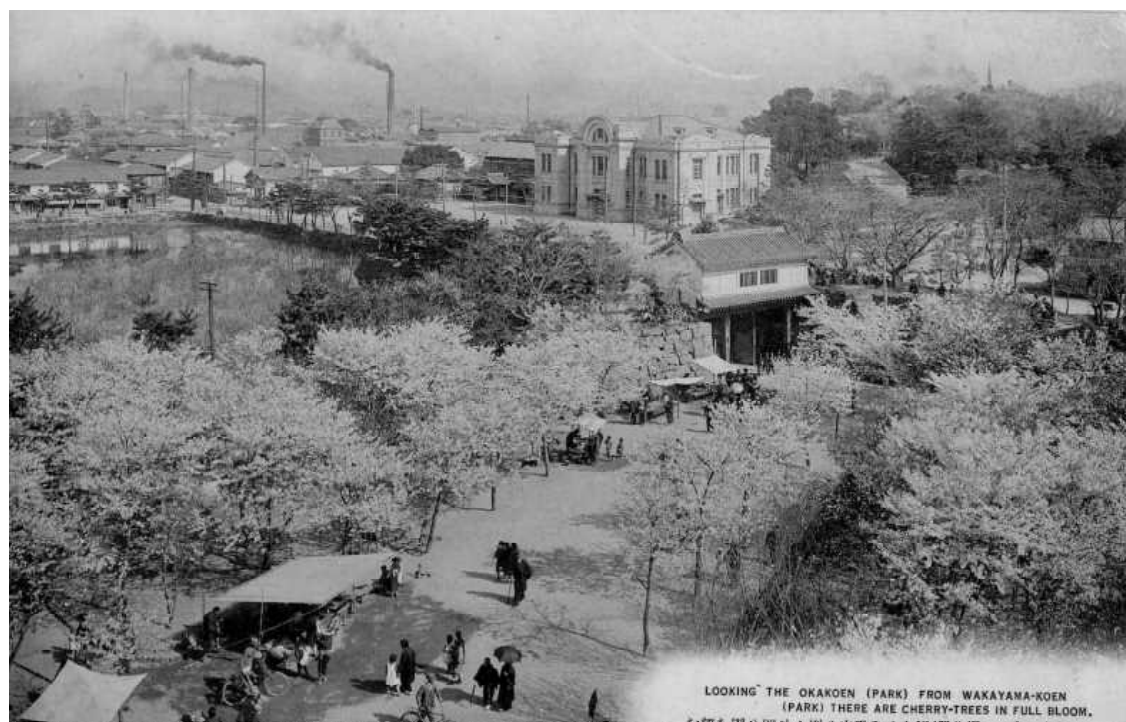
(和歌山市内戦災地区概要図と焼夷弾の弾頭図)

当時の和歌山県の写真

<戦前の紀三井寺>



<戦前の和歌山公園 岡公園>



<空襲後の和歌山市>



和歌山市では、毎年、7月9日に法要を開催しています。

戦争は、最大の人権侵害であり、『命の尊さ』や『互いの違いを認める大切さ』を改めて大切に思い、恒久の平和を願います。



